

第2回青森 ヒバ林復元プロジェクト連携推進協議会

日時：平成29年10月27日（金）13:30～

場所：蓬田山国有林738ほ2林小班

次 第

1 開会

2 主催者挨拶 青森森林管理署長

3 委員長挨拶 青森県森林組合連合会 代表理事専務 須藤 広明

4 内 容

(1) 青森ヒバ林復元プロジェクト ー取組の内容ー

- ①ヒバ林復元プロジェクト
- ②現地の概要について
- ③現地の伐採状況について
- ④今後の調査について
- ⑤意見交換
- ⑥次回の開催について

4 閉会

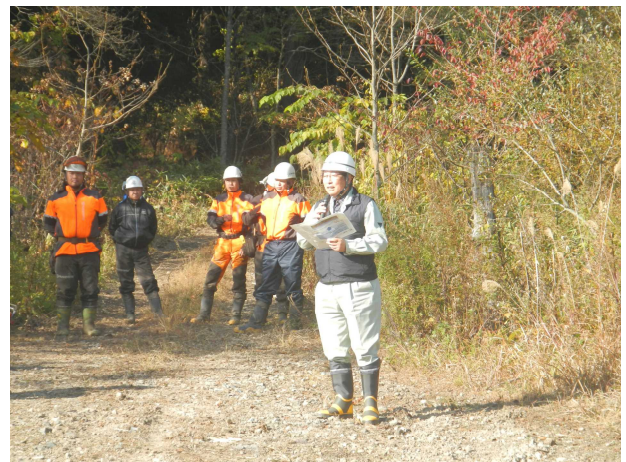
第2回青森ヒバ林復元プロジェクト連携推進協議会の概要について

平成29年10月27日（金）に青森森林管理署管内の蓬田山国有林738ほ2林小班において、第2回青森ヒバ林復元プロジェクト連携推進協議会を開会しました。

青森ヒバ林復元プロジェクト連携推進協議会の目的は、青森県内の関係者が連携・協働して、日本三大美林の一つである青森ヒバ林の復元を推進するための取組を行うことを目的としています。

また、協議会の構成員は、学識経験者、地方公共団体、報道機関、林業関係団体、森林ボランティア等団体、地域で活動している団体で13名の委員で構成されています。

事務局は、東北森林管理局青森事務所、森林技術・支援センター、青森森林管理署、下北森林管理署、津軽森林管理署金木支署で構成しています。



協議会では、青森森林管理署長挨拶のあと、当協議会の委員長である青森県森林組合連合会 須藤代表理事専務より挨拶を頂きました。

今回の協議会では、今年の6月から8月にかけて7箇所のプロットを設定したうちのAプロットとCプロットを視察して頂きました。まず、ヒバの稚幼樹がやや存在するAプロットではスギを2本伐採しました。伐採前と伐採後の明るさを照度計で測定しましたが、



時間の経過等の影響を受けて、明らかな違いは計測データでは見られませんでした。今後、更なる調査を行い、伐採効果を明らかにしていきたいと思います。

次に、ヒバの稚幼樹が無いCプロットに移動し、伐採した木の搬出作業を視察しました。

伐採した材を移動させるときに地表を攪拌させ、新たに進入してくる植物等を調査していきます。

意見交換では、湿地等の条件によって育成する樹種の違い、伐採前の地拵の実施や挿し木の実施、プロジェクトの取組に関する情報の公開、分収林制度や協定によるボランティア活動の参加などについて、委員から活発な

意見が出されました。



最後に、事務局から次回の青森ヒバ林復元プロジェクト連携推進協議会の開催について、来年度の早い時期に開催することです承されました。